

1 自己評価及び外部評価結果

(外部評価はユニット別ではなく事業所全体のもので)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070101849		
法人名	医療法人 萌梅会		
事業所名	総合介護センター あおばの里	【ユニット名:けやき】	
所在地	和歌山市湊1115-55		
自己評価作成日	平成22年 8月 1日	評価結果市町村受理日	平成22年10月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokohyo-wakayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3070101849&amp;SCD=320">http://www.kaigokohyo-wakayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3070101849&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成22年 8月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

街の中にありながら、広々とした庭と畑が広がる木造2階建てのレンガ風の緑の屋根のグループホームです。芝生が広がる庭には、季節の花や木、びわ・みかんなどの果物や季節の野菜を植えています。天気の良い日は、ウッドデッキや庭でお茶をしたり、野菜を収穫したり皆さん穏やかに過ごされています。食事はスタッフが手作りで家庭的なお料理を提供しています。レストランや買い物、ドライブ等に出掛けたり、花見・花火大会・運動会・クリスマス会・お正月・節分・ひなまつり等の行事を季節のお料理をいただきながら楽しんでいます。今年は、秋祭り・日帰り温泉旅行を計画しています。地域の自治会、民生委員や幼・小・中・高校生や踊りの会のボランティアの皆様との交流もしています。来年は10周年、尚一層家庭的な穏やかな雰囲気のグループホームを目指していききたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲の住宅に溶けこんだ2階建ての総合介護センターの建物の中に3ユニットのグループホームがあり、1階には通所介護が併設されている。自治会にも加入しており、地域の一人として近隣住民との交流もスムーズに行われていて、事業所を知ってもらうために食事会を開き相互の交流に努めている。明るく家庭的な雰囲気の中で、ゆったりとした生活ができるように支援されており、広い庭に作った畑で採れる作物や季節の花は入居者の日々の生活を豊かにしている。関連法人の協力医療機関との連携で、往診・緊急時対応・入院の受け入れ体制・健康診断 など医療面での安心も提供できている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	去年、スタッフ全員で理念を考え、話し合っ て作りあげた。毎日の申し送りの時に、理念 を全員がのべる事で、日常的にスタッフが 意識して働けるように取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義をふまえ職員が 話し合い、事業所全体の理念を作り、日々 のケアに活かすよう確認しあっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	自治会に入り、地域の一員として交流してい る。運営推進会議に近所の方々に参加して 頂き、あおばの里を身近な施設として受け 入れてもらえるよう努めている。	地区に住む職員がいることもあり、自治会の一 員として地域の人との交流もスムーズに行 われている。近くの保育園に出かけたり、事 業所を知ってもらうために食事会を開き相互 の交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている	運営推進会議で地域の人に利用者との交 流を通して認知症を理解して頂いたり、包括 支援センターの方を交えて認知症について 話し合ったりしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活か している	運営推進会議では、ユニットの日々の生活 を見学してもらい、質向上のために話し合 いを行っている。出された意見は素早く対応 できるよう努め、サービス向上に取り組んで いる。	会議は2カ月に1度開催されており、事業所 の活動報告や、入居者・家族・地域包括支 援センター・民生委員・地域住民の意見・要 望が出され、運営に反映できるよう、でき ることから実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝 えながら、協力関係を築くように取り組んで いる	市役所や生保課の方々と意見交換や情報 交換を行っている。	地域包括支援センターの協力で、認知症の 理解を進める話し合いを地域で開催した。市 役所には、スプリンクラー義務化の相談に 乗ってもらい最近設置を完了した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サ ービス指定基準及び指定地域密着型介護予 防サービス指定基準における禁止の対象とな る具体的な行為」を正しく理解しており、玄 関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに 取り組んでいる	利用者の安全を考えながら、身体拘束を しない方法を皆で考え、取り組んでいる。 (ベットや車椅子ばかりではなく、声掛け しながらソファや畳で過ごしてもらう)日 中はユニット間やエレベーター、玄関の 施錠はせず、自由に行き来できるように している。	身体拘束をしないケアに取り組んでおり、 ユニット間や建物の玄関の施錠はせず、 一階の通所介護の職員が対応する事で以 前掛けていたエレベーターの鍵をやめ自 由に使えるようにした。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につ いて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業 所内での虐待が見過ごされることがないよ う注意を払い、防止に努めている	職員全員が認識しており、言葉の暴力 にも注意をしている。	/	/

【事業所名】総合介護センターあおばの里 ユニット名:けやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の研修を受講し、スタッフとも話し合っている。また、必要と思われる利用者については、関係機関を紹介している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所説明時や退所時には家族・本人の不安をなくす為、十分に説明し理解していただいた後、契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事務所受付に苦情受付箱を設置している。また、家族会議を開催し、意見・要望を聞く機会を設けている。意見・要望はスタッフで共有し、速やかに反映できるよう努めている。	家族の訪問時に会話の中から意見・要望を聞き、ミーティングや申し送りで職員同士共有している。家族会はあるが、数人が1年に1度話し合う程度となっている。	家族会の頻度や内容の見直し、アンケートの実施など工夫して、幅広く意見・要望を表せる機会を設け、運営に反映させることを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎回の申し送り、その他意見のある場合はその都度、意見や提案を言える関係ができています。	職員は、朝の申し送りやその後のミーティング、スタッフ会議や日々のケアの中で、管理者に意見を言う機会があり、気軽に話せる関係ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	あおばの里の目標を提示し、それに対する評価をしたり、スタッフ自身の目標を持ってもらい向上心をもって働けるような環境作りに努めている。スタッフの労働条件等の希望は速やかに聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症研修・介護研修を計画的に受講させ、取得した知識は他のスタッフにつたえるようにしている。スタッフが必要としている技能や知識の、指導や研修の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	様々な施設や同業者と交流したり、勉強会等に参加している。		

【事業所名】総合介護センターあおばの里 ユニット名:けやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に至るまで、本人や家族と面接を行い、また、ケアマネジャーや家族から情報を得る。入居してからの不安や要望に耳を傾け、サービスを始める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまで、家族と面接を行い、あおばの里の日々の生活を見学してもらう。家族の話に耳を傾け、家族の入居してからの不安や要望に耳を傾け、サービスを始める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としていることを支援できるように努めている。デイやショート等の他のサービスの提案も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に過ごしながらか、話す時間を多く作り、一方的な介護を行うのではなく、共に暮らしを築くことを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族とは何でも話し合える関係を築き、共に利用者を支えていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者のこれまでの人生を知り、友人や家族の面会が途切れないように、また、本人の希望する場所へ訪問することができるよう支援している。	入居者が家族や知人に電話をかけたいときは、できるだけ希望に添えるよう支援している。入居者との会話の中で入居者の馴染みの場所を知り、同行する支援ができている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフは利用者の孤独を防ぐ為、利用者同士の関係性を把握して、スタッフが間に入って利用者同士が関わり合えるように支援している。		

【事業所名】総合介護センターあおばの里 ユニット名:けやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても今までの関係を大切にし、フォローしたり、相談や支援をしている。また、担当ケアマネとも関わっていく。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向や希望に沿った支援をしている。	一人ひとりの思いや希望を聞くよう努めている。会話が困難な場合も日々のかかわりの中で情報を得て把握している。職員間で共有するための内容の記録は十分にはできていない。	日々のかかわりの中から把握できた入居者の意向を、センター方式を利用するなど皆で共有できる記録の仕方を工夫し、入居者に必要な支援に繋げることを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族からの情報や、利用者の毎日の状況を把握し、スタッフで情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録を記入し、ミーティング等でもスタッフ全員で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画に利用者・家族・スタッフの希望や意向を反映し、利用者本位の介護計画を作成している。	家族からの要望や入居者の意向を盛り込んだ介護計画を作り、カンファレンスで、現状に即した見直しをするよう努めているが、意欲や自信を引き出せるような内容とはなっていないところもある。	ベッド上の時間が長い入居者にベッドを離れる工夫を検討するなど、関係者から情報を集め、入居者の意欲や自信を引き出し、生活の質の向上に繋げる介護計画の作成が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の状況を記録し、申し送りをを行い、スタッフで検討し、介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況やニーズに応じたサービス提供に取り組んでいる。退所してからの、デイサービス・ショート・訪問介護・入院・往診等…柔軟な支援の提案をしている。		

【事業所名】総合介護センターあおばの里 ユニット名:けやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的なボランティアや民生委員さんの訪問、警察・消防署・中学校・小学校・保育園との関わり合いを持っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携している病院から定期的に往診を受けている。歯科や提携病院以外の受診は本人や家族の希望通り行っている。	かかりつけ医の選定は希望を尊重している。受診は家族が行うこととなっているので、往診や受診の支援が受けられる協力医療機関にかかりつけ医を変更する機会が多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携している病院から看護師が定期的に訪問して、健康管理をし看護を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時は、主治医・看護師・家族・スタッフ等が情報を共有し、早期に退院できるように努めている。日頃から医師・看護師とコミュニケーションを取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の場合は、随時本人・家族・スタッフが話し合う場を設けている。入所時や状態の変化に応じて方針の確認をしている。	入居時の説明と、健康状態の変化に応じ随意話し合いを持つようにしている。協力医療機関との連携で重度化や終末期に対応する方針である。事業所では昨年1名の入居者の看取りを経験した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ全員定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの下、実際に煙を出したり、非常ベルを鳴らしたりして、夜間想定消防訓練を行った。地域の方々にも参加していただき、緊急時の協力をお願いした。	消防署の協力を得て地域の住民参加で夜間想定避難訓練を行い、統一されていなかった鍵をマスターキーで開けられるように改善し、スプリンクラーの設置も実現した。	

【事業所名】総合介護センターあおばの里 ユニット名:けやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ全員が個人個人を尊重し、プライバシーを損ねず対応している。	職員は、入居者の尊重についてミーティングで話し合っている。日常のケアの中で、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をする事を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望を聞きだせるよう努力している。その思いは出きるだけ対応できるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭的な雰囲気を作り、押し付けない方針で、個々自由な生活を出きる範囲で支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室の出張サービスで、カット・パーマ・毛染めを本人の希望で行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出きる利用者には、声掛けをして、準備や後片付けをしてもらっている。	昼食は、食材を外注し厨房で作られた食事を運んでいるが、土・日や夕食はその材料で調理をし、時には別のメニューに変えることもある。畑で作った野菜やスイカなども食卓に上る。入居者が配膳等を手伝うこともある。	入居者と一緒にメニューを考えたり、買い物・調理をしたり、同じ食卓を囲むといった内容を更に工夫し、食事が一層楽しみとなるような取り組みに期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	スタッフが一緒に食事をし、摂取量を把握し、日報に記入している。摂取量の少ない人には、摂れるよう支援する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアや声掛けをしている。		

【事業所名】総合介護センターあおばの里 ユニット名:けやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の身体状況に応じてだが、「自立排泄」を支援している。	バイタル管理表で排泄を記録し、一人ひとりのパターンを把握して、声かけなどでトイレでの排泄の支援を行っている。寝た姿勢の多い入居者が立位になることでポータブルトイレでの排泄ができ自立排泄に繋がった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄状態を把握し、記録する。食事の工夫、運動、水分補給に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ユニットバスや大浴場での入浴を日々違った入浴剤を入れ楽しんでいる。入浴を好まない利用者についても、工夫をして入浴できるようにしている。	基本的には日勤の職員がいる時間帯になるが、汗をかいたりした場合など臨機応変に対応している。入浴を拒む者にはコミュニケーションを大切に声かけで入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間寝すぎないように、昼間楽しく過ごしてもらえよう、庭に出たり、歌を歌ったり、デイサービスに参加等している。眠れない人には、リビングで夜勤者が暫く穏やかに話し相手をして、安心して眠れるよう支援する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携の病院の薬剤師が薬の分包をしてくれているので、スタッフはファイルや名前を確認して正確に服薬の援助をしている。薬の変更等があった場合は正確に申し送りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生け花やおやつ作りを楽しんだり、花見・花火・レストラン等のお出掛けや、行事でのお食事など…楽しみごとを支援する。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	これまでも、神戸1泊旅行や白浜1泊旅行に出掛けている。今年は、近場で和歌浦温泉の萬波へ日帰りを計画している。	日常の買い物や散歩も希望に沿って行い、花見や花火見物のような季節ごとの外出も積極的に支援している。戸外に出かけられない場合、庭に出ておにぎりを食べることもある。	



【事業所名】総合介護センターあおばの里 ユニット名:けやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所で管理している。スタッフが一緒に買い物に行き、支払を援助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が家族さんに電話を希望された場合は、気軽に掛けていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感を採り入れ、家庭的な雰囲気を出している。	食堂は窓から陽が入り明るく、サッシは室内が障子になっていて家庭的な雰囲気である。キッチンでの作業を見ながら入居者が生活感を持って過ごせるよう工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになりたい時は、自分の部屋でゆっくりしていただき、利用者同士で過ごす時は、スタッフも交えてリビングで会話や歌やレクレーションを楽しむ。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や馴染みの調度品を置き、居心地よく過ごせるよう工夫している。また、ベットと布団を選んでもらっている。	家具やタンスは、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、居心地よく過ごせるようにしている。ベッドは備え付けであるが、入居者の状態や希望によって布団にも変えられる対応をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	能力に合わせた役割分担を行い、自立支援に努めている。		